

2025 7/8

No.2238

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



夏至から11日目の「半夏生」を前に、横須賀リサーチパーク（横須賀市光の丘）内の公園で、夏に葉が白くなる「ハングeshoウ」が見頃を迎え、群生地が6月27日まで特別公開された。



contents

視点点描	3
歴史家の透徹な視点に学ぶ	
緊急寄稿	4
米によるイラン攻撃の違法性を問う	
特集	6
事業者の苦境と高まる国民負担 転換点に立つ日本の再エネ政策	
政治双眼鏡	10
「行うは難し」の二つの道 石破政権の苦境打開策	
サヘル・ローズ×リアルワールド	11
「争わずに生きる」土台づくり	
口福の源	12
「日本米」は特別な食べ物	
グリーン＆ブルー	13
小泉コメ劇場のすごみと忌避感	
かながわTODAY	14
6月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2025年7月定例講演会

7月15日(火)午後1時30分～3時
県民共済みらいホール(桜木町・
県民共済プラザビル内)

講師：横浜国立大学台風科学技
術研究センター長
筆保 弘徳氏

◇2025年8月定例会(工場見 学と講話)

8月28日(木)午後2時30分～5時
キリンビール横浜工場(京急本
線生麦駅から徒歩)

講師：キリンビール横浜工場長
藤原 義寿氏
キリンビール工場見学・試飲
有志ビアホール懇親会(午後5
時～、参加費5千円)

◇2025年9月定例講演会

9月24日(水)午後1時30分～3時
かながわ労働プラザ(石川町駅
から徒歩)

講師：神奈川新聞特別編集委員
有吉 敏氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



歴史家の透徹な視点に学ぶ

文化部で今年取り組んでいる企画連載「戦後80年を問う」に登場願おうと、歴史学者の加藤陽子さんの著作を集中して読み込んだ。

1930年代の日本の外交と軍事を専門とする加藤さんは「1930年代の雰囲気は今と似ていて怖い」と著書に記す。

第1次世界大戦の反省から生まれた国際連盟は1920年代に領

土問題や紛争を解決し、戦争へのエスカレートを防いだ。

しかし、その試みは世界の平和に責任を持つはずの日本などの常任理事国によって壊された。31年の満州事変では、結果として力による現状変更を国際社会が止められず、イタリアやナチス・ドイツもこれに倣った行動に傾斜する。

歴史は同じ形では繰り返さない

が、韻を踏むと言われる。

今、安保理常任理事国のロシアがウクライナを侵略し、ガザ地区を攻撃するイスラエルを米国が拒否権を使って擁護する。米国はイランにも空爆を行い、国際法違反も指摘されている。安保理常任理事国自体が安保理の機能不全を招き、秩序を乱している事態だ。

武力による現状変更の懸念が地球規模で広がり、それに伴って軍需産業が拡大する。日本も米国の戦争ビジネスに追従する形で、軍事費を倍増させ、武器輸出の全面解禁に道を開き、敵基地攻撃能力を持つて戦争できる国へと政策を大転換した。

2020年、加藤さんら6人の学者が日本学術会議に推薦されながら、菅義偉首相（当時）に任命を拒否された。理由はいまだに明かされずにいる。

科学者が戦争に加担した反省に

立ち、戦後に設立された学術会議は、軍事研究に協力しないという声明を出してきた。任命拒否の背景には、こうした姿勢への政府の反発があると見られる。

歴史家として、加藤さんは記録の重要性に何度も言及する。任命拒否の経緯に関する行政文書の開示を求めた訴訟の原告ともなった。公文書の管理、情報公開はとにも民主主義の根幹をなすからだ。

理由も示さず、国家が個人を拒否する。このことの危うさを、私たちはもっと深く胸に刻むべきだ。したたかに、粘り強く、国と対峙する加藤さんの姿勢に歴史家の矜持を見る。

インタビュアーは加藤さんが多忙で叶わなかったが、著書を読み、歴史を学ぶことで、現在を見つめ直すという貴重な機会を持てた。

（神奈川新聞社文化部長兼

論説委員・桐生 勇）